北海道社会科教育連盟

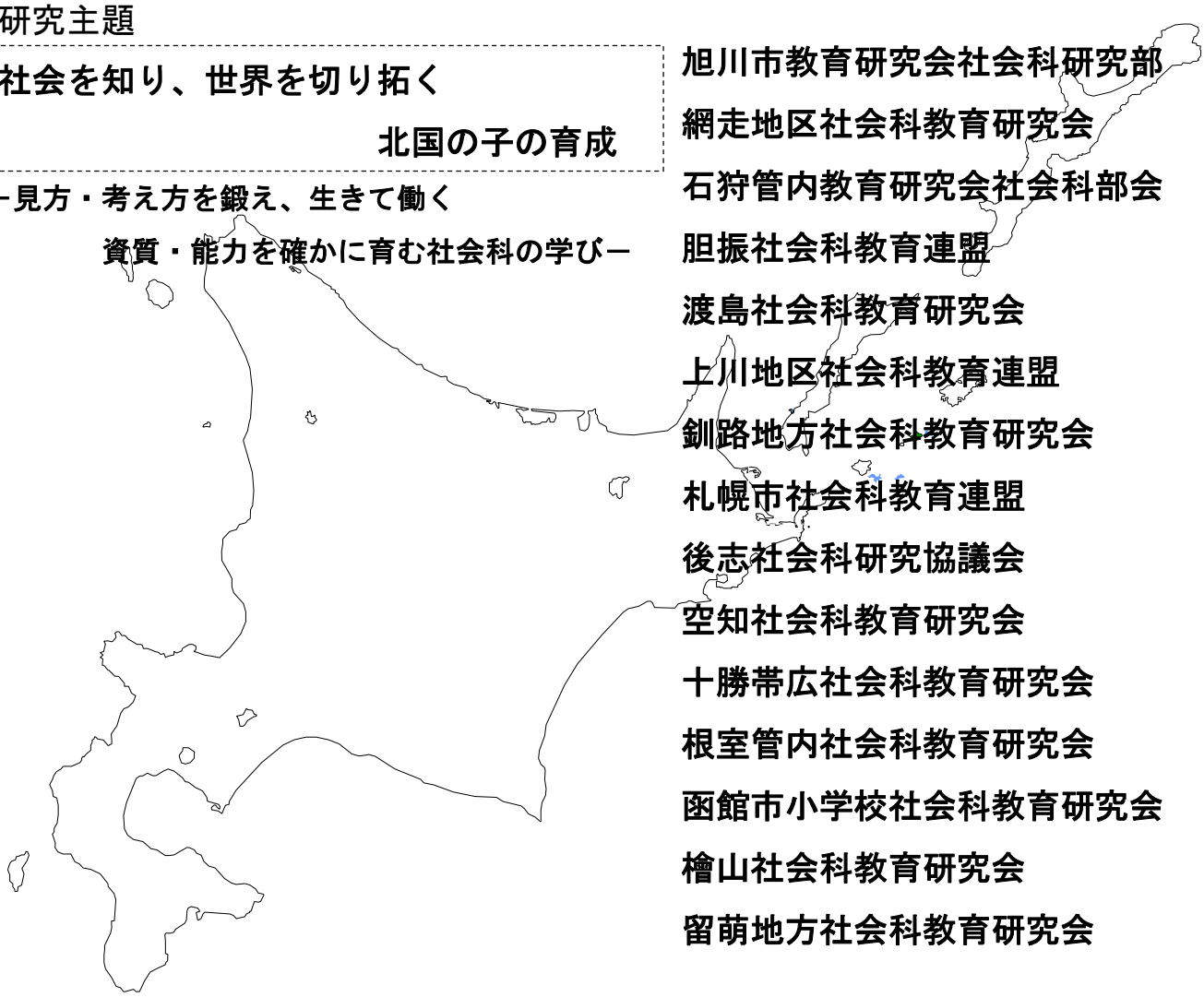
地 区 活 動 だ よ り

～令和３年度～　　№36

研究主題

社会を知り、世界を切り拓く
北国の子の育成

ー見方・考え方を鍛え、生きて働く
資質・能力を確かに育む社会科の学びー



旭川市教育研究会社会科研究部
網走地区社会科教育研究会
石狩管内教育研究会社会科部会
胆振社会科教育連盟
渡島社会科教育研究会
上川地区社会科教育連盟
釧路地方社会科教育研究会
札幌市社会科教育連盟
後志社会科研究協議会
空知社会科教育研究会
十勝帯広社会科教育研究会
根室管内社会科教育研究会
函館市小学校社会科教育研究会
檜山社会科教育研究会
留萌地方社会科教育研究会

【 発　行 】
北海道社会科教育連盟
委員長　　白崎　　正

【発行日】
令和４年(2022年)5月14日（土）

【事務局】
札幌市立円山小学校
〒064-0821　札幌市中央区北１条西25丁目1-8
TEL　011-631-3437　　FAX　011-615-6593
事務局長　　平　澤　淳　志
【編集担当】
札幌市立米里小学校
〒003-0871　札幌市白石区米里１条３丁目８-１
TEL　011-874-8661　　FAX　011-874-4659
総務部長　　佐々木　英　明

地区活動だより

旭川市教育研究会　社会科研究部　令和３年度下半期報告

「みんなの社会科　～コロナ禍の今，できる研究を　できる方法で～」

１　活動内容の報告

（１）「主体的に学習に取り組む態度の評価」について考え，課題（問題）解決的な学習の充実を図る研究

期日	担当	授業者	委員長	単元名	備考
１０月～１月	３年	寒川 寛之（忠和小）	河野　翼（神居小）	事故や事件からくらしを守る	クラウドやDVDで授業動画を視聴し，オンラインを活用した協議を行った。
	４年	前島 沙紀（陵雲小）	井須 哲朗（千代田小）	残したいもの・伝えたいもの	
	５年	岡　義章（神居東小）	平野 尚人（旭川第三小）	情報を生かすわたしたち	
	６年	斉藤 邦彦（永山小）	樋口　奨（陵雲小）	明治の国づくりを進めた人々	
	南	日下 大地（神楽中）	山城 優介（神居中）	明治維新（歴史的分野）	
	西		庭瀬 奈穂（附属旭川中）	地方自治（公民的分野）	道社連研究発表
	北	平山 有人（東陽中）	平山 有人（東陽中）	地方自治（公民的分野）	

（２）部員の資質・能力の向上に重点を置いた研修

期日	場所	事業名	内容
１月１１日（火）	ZOOM	冬季研修会	・旭川ガスと税務署によるプレゼン ・今年度の研修についての交流

２　研究活動や組織活動での成果と課題

（１）研究活動

○「教科書や副読本等」を活用した授業構想をすることで，単元計画の充実につながった。誰でも，問題解決的な授業に取り組む一助となる。

○ゴールを見通した，概念的な学習問題にチャレンジできた。発達段階，事実追究，概念理解等を考慮することで，さらなる発展の可能性がある。

○学習過程に沿って，「予想や計画」「中間地点」「まとめ」の３回程度で振り返ることで，持続可能な取り組みとなった。発問を意図的に設定することは，児童の姿をイメージすることにつながり，効果的であった。

（２）組織活動

○ICT を有効活用することで次のような３つの成果があった。１授業や会議の打ち合わせに活用することで，効果的に進める一助となったこと。２コロナ禍においても，練り合いの授業場面を設定することができたこと。３オンラインでの指導案検討は，負担を軽減して取り組むことにつながったこと。

○追試することで，授業の可能性を広げることができた。

３　次年度の主な活動予定の紹介　等

・コロナ禍における「みんなの社会科」の実現に向けた一層の研究・研修・発信の充実

・社会科における一人一台端末の活用

地区活動だより

網走地区社会科教育研究会

研究テーマ：自ら参画し、たくましく生き抜くオホーツクの子の育成

令和３年度の活動内容

（１）活動の具体

〇定例学習会（全７回）をＺＯＯＭで開催

〇公開授業

９月　３日　美山小学校にて授業公開（６年生）

１２月１０日　みち学習公開授業（４年生）

〇セミナーで実践発表や他の研究団体との協力事業

８月　４日　夏の教育セミナーで実践発表

１０月３０日　学校づくり研究会『秋季合同研修会』で実践発表

１月１２日　冬の教育セミナーで実践発表

〇みち学習検討会

第１回　８月　３日　みち学習について，今年度の計画について

第２回　１月３１日　公開授業の交流，次年度の活動について

（２）成果

今年度は，新型コロナウィルスの流行により，対面での活動は限定されたが，ＺＯＯＭを活用し，幅広い活動をすることができた。

公開授業を年２回行った。管内研究会だけではなく，みち学習の授業公開を実施することもでき，実践を通して研究を深めることができた。

また，教育セミナーでの実践発表など，管内の他団体と協力しながら，活動を進めることができた。会員が協力することで，充実した１年となった。

（３）課題

新会員を１名迎えたが，活動を紹介する機会が少なかったように感じている。初任段階の教員が増えていく中で，網社研の活動を周知する機会を多くしていきたい。会員の増加を図り，より充実した活動ができるようにしていきたい。

石狩管内教育研究会社会科部会　「地区活動だより」

１　今年度の石社研の研究

Ａ．研究主題　**「追究を通して，主体的に社会とかかわる力を育む社会科学習の創造」**

Ｂ．研究内容　①子どもの思考の筋道を意識した単元構成
②「なぜ？」「どうして？」と疑問を持たせ，追究していく授業構成
③学びを深め・子どもを伸ばす評価

Ｃ．研究計画　今年度は，３年継続研究の３年目。昨年度は，２年ぶりに授業実践を通した検証を行うことができた。これまでの研究の成果と課題をふまえて更に追究・深化させる。研究の具体化については石社研の研究内容を受けて，各市町村（千歳，恵庭，北広島，江別，石狩）の推進委員を中心に具体化される。また，各市町村の独自性を十分に生かした研究を進めてきた。

Ｄ．研究方法　**①実践検証の方法**

各市町村，各会員の主体的な研究に重点を置き，自ら検証すべき単元を検討し実践を深めていく。授業実践を通した検証を行うことはできたが,指導案検討の方法,授業の参観方法,授業後の話し合いのもち方等,コロナ禍での課題も出てきている。リモートを効果的に活用しながら,授業実践から研究を進めていきたい。

②部会情報の発行

部会連絡，各種研究会報告，授業実践の交流，各市町村の声などを定期的に発行し，部会のパイプ役として情報活動の充実に努める。

③講演会

今年度は，７月９日（金）に東北学院大学の佐藤正寿先生をお招きし，講演をしていただいた。興味ある実践例が数多く紹介され，大変有意義な講演会となった。

２　今後の研究体制

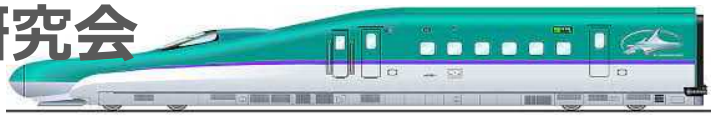
会員数約１２０名の組織であるが,各市町村とも研究組織が整備され,研究実践への取り組みも充実発展してきている。これは，市町村の推進委員の熱意ある努力とそれを支える会員各位の協力によるものといえる。今後も，役員，推進委員，教育課程委員間の連携を密にし，部会研究を強力に推し進めたい。

３　組織活性化に向けた特色ある取り組み

今年度，部会内で『管内社会科副読本協議会』小委員会を設置し，管内各市町村で使用されている副読本の内容交流，それぞれで作成している原稿資料を持ち寄り，共有化できそうな単元について情報交換を行った。これまで各市町村の編集委員がそれぞれに取材，教材化をしてきた単元を減らし，作成する市町村編集委員の負担軽減を図っている。

（文責　石狩管内教育研究会社会科部会事務局長　岡﨑　喜好）

渡島社会科教育研究会



創立１９５１年（昭和２６年）

研究主題
未来を見つめ、ゆたかに社会とかかわる子供の育成 ～社会を読み解き、新たな創造にむけて学びを生かす子供の育成～

令和３年度 地区活動だより

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、とくに社会科の学習にとって重要である児童生徒が実際の現場を訪問したり、外部人材から直接話を聴いたりする学習が難しくなっている。そのため、身近な地域素材について収集・整理した画像や動画や、web 会議アプリを活用した学びの機会を、GIGA スクール構想によって整備された１人１台環境を効果的に活用することによって、この状況を改善できるのではないかと考えた。ちゅうでん教育振興助成を活用し、本会の研究推進および会員の資質・能力の向上、各校における ICT の利活用、情報活用能力の育成等、渡島各地域のすべての教職員を対象とした取組を以下のとおり展開した。

研究授業開発 オンライン 実践交流会

９月９日（木）・１０月２８日（木）／ Web 会議アプリ Zoom（オンライン）

① 遠方との交流が難しい広い渡島地域において、会員が気軽に実践交流を行うための新しい研究様式を展開。
② 本会の研究主題や研究の視点を踏まえた授業実践を構築。
今年度は特に、「本時における児童生徒の変容」を重視する。
・「個人と社会をつなぐ」という視点からの教材化。
・発達段階を意識した「積み上げと応用」を適正化した問題解決型の学習展開。

https://drive.google.com/file/d/1A0fdF0ZfCPuJT2MhL_wdmOwmTCBI0T0N/view?usp=sharing

首都圏 視察研修

１２月１９日（日）～２１日（火）／ 東京都・千葉県

ICT を活用した教育実践や「データの活用」を含む情報活用能力を学校全体で育成する取組、臨時休業下でのオンライン授業の実際、遠隔での授業実施・構築に関する知見の収集等、現地視察およびヒヤリングを目的とした視察研修を実施。後日、研修成果を報告書にまとめ、渡島各校にデータ提供を実施。

① 江戸東京博物館 （〒130-0015 東京都墨田区横綱 1-4-1）
② 国立教育政策研究所 福本 徹 総括研究官 （〒100-8951 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2）
③ 千葉県船橋市立葛飾小学校 （〒273-0039 千葉県船橋市印内 1-2-1）
④ 東京都世田谷区教育委員会 （〒154-8504 東京都世田谷区世田谷 4-21-27）
⑤ 株式会社内田洋行教育総合研究所 （〒104-0033 東京都中央区新川 2-4-7）

https://drive.google.com/file/d/13pdpq-0pD2hWiQ7lVIK8O0DJRrLNx6rs/view?usp=sharing

バーチャル 社会見学

１月２６日（水）／ 七飯町立七重小学校 ⇔ 羽田空港 ⇔ 函館空港
【日本航空（JAL）による「空育」遠隔特別授業】Google Meet（オンライン）

函館空港・羽田空港・学校を接続し、整備士・グランドスタッフ・客室乗務員それぞれから仕事に関する講話を聞くとともに、児童生徒が自分の GIGA 端末から Google フォームを活用して質問を行った。質問に対しては、整備士などからそれぞれ回答を行う双方向性ある遠隔授業を実施。

外部有識者による研究に対する評価

２月１日（水）／ Web 会議アプリ Zoom（オンライン）
【ICT 講演会 「新たな学びの姿の実現に向けて～ICT の『日常使い』のための考え方や具体的な事例から」】 講師：放送大学 客員教授 佐藤 幸江 様

GIGA スクール構想による１人１台の端末環境下におけるよりよい教育活動の展開および本会の研究推進への知見を深めることを目的として、公開授業および講演会を内容とする研修会を実施。

令和３年度　地区活動だより（下半期）

上川地区社会科教育連盟

研究の灯は絶やさない

「社会とつながり，よりよい未来を探求する子の育成」を研究主題とし，４ヵ年継続の３年次研究を進めてきました。

一同に会することができない状況でしたが、開催方法を工夫し、例年通り授業と研究協議会を実施することができままました。

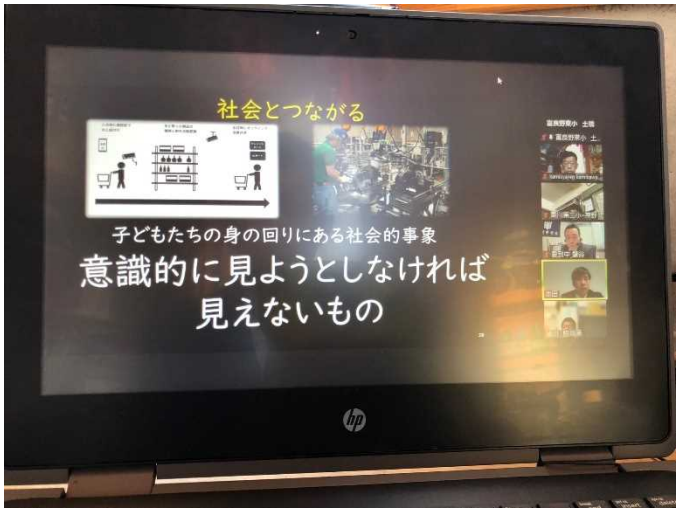
９月１４日（火）	美深小学校	４年授業
１０月　１日（金）	小学校部会研究協議会	
１０月　６日（水）	名寄中学校	公民授業
１０月１８日（月）	中学校部会研究協議会	
１月２９日（土）	冬期研修会　（オンライン）	

社会の状況に合わせて進む

小学校部会は美深町立美深小学校４年生。中学校部会は名寄市立名寄中学校３年生で授業を実施、録画のために研究部数名のみが赴きました。その後、研究協議会に参加を希望された方に授業と研究の視点についてまとめた動画をＹｏｕｔｕｂｅで限定公開。

オンラインでの研究協議会は事前に討議の柱を示したり、質問を受けつけたりした上で実施しました。管外の方から参加いただいたり、上川教育局にご協力いただき助言者を派遣（オンライン）していただいたりしたことで、実りの多い時間とすることができました。

冬季研修会は急遽オンラインで　～１月２９日～



当初は当麻小学校を会場に行う予定でしたが、感染拡大を受け、急遽オンライン開催に変更となりました。

今年度の研究を振り返った後に、全小社研北海道大会の提言について検討。

研究部から提言予定の単元について説明を受けた後に、Ｚｏｏｍのブレイクアウトルーム機能を利用して小グループで議論しました。

初めての試みで難しさはありましたが、オンライン研修会では、少人数で話し合った方が議論が活発になることを実感しました。研究部員が離れた学校で勤務している上川地区では，授業検討を行う際に今後も有効な手段として利用できそうです。いち早くコロナの収束を願っておりますが、社会のありように対応して今後も活動を続けて参ります。

■ 釧路地方社会科教育研究会　～ 地区活動だより ～

■ 1　令和3度下半期の予定の紹介

下半期	活　動　内　容
10　月	○ 令和3年度全道札幌大会(ZOOM) ・小学校部会　～　授業案など検討・協議 ・中学校部会　～　授業案など検討・協議
11　月	○ 小・中学校部会 ・指導案検討 ・反省(成果と課題) ・次年度研究に向けて ○ 役員会、事務局会議
12　月	○ 広報誌発行 ○ 小・中学校部会 ・研究授業
1　月	○ 冬季研修会 ○ 小・中学校部会 ・指導案検討
2　月	○ 広報誌発行 ○ 小・中学校部会 ・研究授業
3　月	研究のまとめ発行　　役員会議

研究部月例

■ 2　成果と課題

(1) 第76回北海道社会科教育研究大会札幌大会

① 成果

・新4か年計画の三か年目の理論研究の充実を図ることができた。
・「見方、考え方を鍛え」るため、①徹底した目標分析と課題との整合性　②単元本時の問いの重視とその連続性　③協働的な社会科らしい学び　④使える知識・技能を目指す授業像とし、次年度以降に繋げる　という釧路の研究ビジョンを共有できた。
・緊急事態宣言や延防止等重点措置により、全会員が一斉に集まり、研修会を開く

② 課題

・新型コロナの影響で授業参観ができず映像での視聴となり、授業の雰囲気を感じることができず残念であった。
・単元計画において、個別最適化された学習と協働的な学習を効果的に配置することが重要。また、これまでの授業実践をもとにICTを効果的に活用できるようにすることも必要。

■ 3　令和4年度上半期地区活動予定

(1) 5月28日(土)　令和4年度総会

(2) 夏季研修会(8/27予定)

(3) 各月　　**小中学校各部会、学習会**

令和３年度下半期地区活動だより

札幌市社会科教育連盟

１　令和３年度下半期地区活動報告

【第 48 回札幌地区研究大会は、オンラインで開催】

昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、中止した第 48 回札幌地区社会科教育研究大会。研究会はできなくても、研究を進めてきた取組を土台とし、今年度、改めて第 48 回札幌地区社会科教育研究大会を開催した。

９月から１２月の長期にわたり、授業８本、分科会４回に及ぶ研究大会であった。コロナ禍、参観者を絞り込んだ授業公開、授業を録画しホームページ上での視聴、それを受けてオンライン分科会。研究の最先端である学年部会とそれを支える運営側が一体となって進めてきた研究大会であった。通常、他の学年部会の授業を見ることはできないが、オンラインにすることで、すべての授業を視聴することを可能とし、参加自由の異学年部会合同分科会を行った。

授業づくりにおいては、共生の文化を創造する資質や能力を育むために、過去２年間の取組を生かしつつ、新たな視点からの教材化や新たな教材開発に挑戦した。現状に満足するのではなく更なる授業の可能性を探り続けてきたのである。

・これまで交わりのなかった人同士や社会的事象が「発想の転換を生かす人物の営み」をきっかけに、共生へと向かう教材化。

・「目的の共有、共存・共栄、共助、相互扶助、調和、多様性や異質の享受と理解」という糸を紡ぎながら、人と人、人と社会的事象の間に、持続可能な新たなつながりを生み出す人物の営みを教材化。

このような教材化を大切にしてきた今年度の取組は、子どもの協働的な学びにつながる。自分とは違う様々な考えと出会い、それらをよさとして受け止め、自分の追究を広げ深めていく。共に学び共に高め合う姿は、「共生の文化を創造する資質や能力を育むこと」を目指した教材化と、軌を一にするのである。

【冬の学習会も、オンラインで開催】

２月の学習会も新型コロナ感染症拡大の影響を受け、オンライン開催となった。全国大会に向け、研究理論を授業の姿で提言することをねらった。日本の ODA の具体的な取組として、ウガンダで「ミスターネリカ」と呼ばれる JICA コメ振興プロジェクト専門家の坪井さんを取り上げた。貧困に苦しむウガンダの農民にネリカ米の栽培を広げ、自立と発展を目指した営みを教材化し実践した。参観者による研究協議を行うとともに、全国大会の講師である小倉調査官、澤井先生（元視学官）、さらには全小社調査研究部長石井校長先生に、より実践レベルでご指導をいただき、理論編の強化につなげていくことができた。

２　令和３年度上半期地区活動予定

全国大会へ向けて授業の精度を高めるため、理論編との整合性を図るとともに事実関係の確認や再調査、更なる教材研究等、教材化の主張点となる「共生・持続可能性」の具体化を検討していきたい。

2021 年度 下半期　地区活動だより　　2022 年 3 月

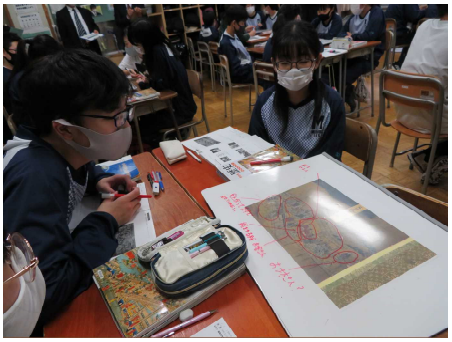
空知社会科教育研究会

研究授業～世界の諸地域　アジア州

ーアジアでは、なぜ経済が発展したのだろうかー

10 月 15 日（金）、岩見沢市立緑中学校にて本研究会研究部長である成田照行教諭が地理的分野『世界の諸地域　アジア州』を題材に研究授業を行いました。昨年度に引き続きコロナ感染拡大防止の観点から、オンラインでの開催としました。オンラインによる研究授業にもすっかり慣れ、たくさんの会員が参加して活発な研究協議を行うことができたことは『学びを止めない空知』として大変意義深いものであったと捉えています。

授業内容については生徒の興味や関心を引き出しながら、“能動的な学び”から“主体的な学び”へと転換する手立てとして***『資料提示』と『発問』の工夫***について検証できたことが成果としてあげられます。今後も教科書活用型での「単元を貫く学習課題の設定」と「生徒が主体的に課題意識を持ち、納得解を得る」方策について考えるなど『子どもとともにつくりあげる授業』の具体について研究を継続していきたいと思います。



なお、**第 76 回 道社連 札幌大会にて紙面提案**をさせていただきました。今後も各地区の皆様から、様々なことをご教示いただけますようお願い申し上げます。

空知を知る「炭鉄港次世代伝承事業」

ー月形樺戸集治監・三笠総合博物館（野外博物館）ー

11 月 6 日（土）、空知総合振興局主催、当会の共催により「教職員向けバスツアー」を実施しました。当初の予定からコロナ禍の状況で延期を余儀なくされ、この日に何とか行うことができました。札幌市や小樽市の教職員を中心に総勢 30 名ほどのご参会をいただき、充実した研修にすることができました。私も知らなかったことも多々あり、新たな気づきを得ることができました。地域素材の魅力が尽きないことを痛感しました。

月形で北海道がなぜ開拓されたのか学び、三笠でその端緒となる石炭の歴史を知る、ストーリー仕立てのバスツアー

月形樺戸博物館

明治維新から北海道の開拓に至るまでのプロセスを視覚的かつ系統的に学べるよう工夫された充実の展示を見学できます。また、囚人達が作った樺戸道路を再現した精巧なジオラマは一見の価値があります。

三笠市立博物館

地層から石炭ができる仕組み、実際に地表に出ている石炭、現存北海道最古の炭鉱遺構を実際に見学しながら、わかりやすいガイド案内で、理解を深めることができます。

新年度の予定

○6 月　総会　　○8 月　会報誌発行　　○10 月　公開研究授業　　○1 月　冬季研修会

地区活動だより

十勝帯広社会科教育研究会

１　今年度の研究テーマ

【研究主題】自ら参画し、郷土から次代を担うたくましい子どもの育成
【研究副主題】「見方・考え方」を鍛え、「資質・能力」を育む社会科授業
【研究の視点】１　子どもの主体性を高める学習問題と教材化
２　「見方・考え方」が働く学習展開

２　今年度の活動内容

① 総　会（６月４日～１１日）

今年度も、昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、メールによる紙面提案の形で行いました。昨年度、実施することができなかった学習会・研修会・授業研究会等を計画し、承認を得ました。

② 夏季学習会（小学校部会８月２日、中学校部会８月４日）

十勝教育研修センターにて夏季学習会が行われました。小学校部会１１名、中学校部会９名のご参加をいただきました。両部会共通テーマの「３観点の学習評価および評価方法」について学んだ後、小学校部会では「社会科の ICT 活用について」、中学校部会では「ルーブリック体験」と、それぞれの内容で研修を行いました。両日とも、大変有意義な研修となりました。情報提供、資料提供をしていただいた皆様、ありがとうございました。

③ サークル合同研（１１月２６日）

鹿追中学校にて中学校社会科の公開授業がありました。当サークルからは中学校部会を中心に研究協議に参加しました。

④ 十勝子ども大会（１１月１３～１４日）

社会科作品展を実施しました。搬入・搬出・会場受付など、会員の皆様のご協力により無事に終えることができました。ありがとうございました。

⑤ 授業研究会

今年度は、小学校１本、中学校１本の授業研究会を実施することができました。残念ながら対面での授業公開は行えませんでしたが、授業動画の公開、また、冬季研修会での発表につながるプレゼンの作成など、各研究部員が工夫を凝らし、様々な試行錯誤により、行うことができました。事前研では、研究部員が中心となって、授業作りを行いました。指導案と事後研のまとめについては、研究部・事務局がデータ保存をしています。

⑥ 冬季研修会（令和４年１月７日）

オンライン参加（遠征先の三重県からの参加）含めて 22 名のご参加をいただきました。今研修会では小学校研究部発表、中学校研究部発表を行いました。先生方からは、様々な視点から沢山のご意見、アイデアを出していただきました。あえて小学校中学校の発表を同じ場で行うことで、教材、単元における小中の違い、各校の指導の流れ、研究テーマへのアプローチもわかり、とても充実した時間となりました。